

U-PARL

東京大学附属図書館

アジア研究図書館

上廣倫理財団寄付研究部門

UEHIRO PROJECT

FOR THE ASIAN RESEARCH LIBRARY

2021

ABOUT U-PARL

部門長を務めております蓑輪です。

東京大学初の研究図書館であるアジア研究図書館が2020年10月に開館致しました。また、2021年4月にはサブジェクト・ライブラリアン業務を担当する教員が附属図書館に配置されました。これも本学初の試みです。図書館のこのような新しい知の変革にU-PARLが協力できたことを大変に嬉しく思います。本年度は、協働型アジア研究の拠点形成により注力するとともに、新たに設立された研究開発部門とともに引き続き研究図書館の機能開拓研究にも尽力してまいります。

今後ともご支援を宜しくお願いします。

U-PARL部門長 蓑輪顕量(人文社会系研究科教授)



東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門Uehiro Project for the Asian Research Library(U-PARL)は、公益財団法人上廣倫理財団の寄付を得て、2014年4月に附属図書館に設置された研究組織です。

U-PARLは、その第一期(2014～2018年度)において、アジア研究図書館の構築支援を主要なミッションとして掲げ、蔵書構築、請求記号体系の策定、フロアプランの検討に加え、セミナー、ワークショップの開催などの活動を行ってきました。

第二期(2019～2023年度)では、知の結節点となるアジア研究図書館を軸に、アジア研究拠点の形成、研究図書館機能開拓研究、人材育成と社会還元、アジア研究図書館構築支援を柱とした活動を実施しています。



U-PARLは2020年10月に移転し、総合図書館西側4階で活動しています。

ASIAN RESEARCH LIBRARY

2020年10月1日、東京大学総合図書館4階にアジア研究図書館が開館しました。アジア研究図書館には、多様な現地語文献を含むアジア関係の文献・資料が集約され、独自の分類法によって配架されています。また、専門職の教員が配置され、高度な研究支援機能を発揮することを目指しています。併設されたセミナールームは研究会などに利用することができます。

アジア研究図書館ウェブサイト：<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia>



セミナールーム



開架フロア

兼務教員：蓑輪顕量(部門長)、大串和雄、森本一夫、上原究一(副部門長)、海野聡

特任准教授：永井正勝(副部門長)

特任助教：徳原靖浩

特任研究員：荒木達雄、澁谷由紀、須永恵美子、中尾道子、宮本亮一

特任専門職員：宇戸優美子、中井勇人

事務補佐員：小澤智子、吉川仁美、高山和歌子

- ◆ 図書館の強みを活かしたアジア研究の推進
- ◆ 学術ネットワークの構築

協働型アジア研究拠点の形成

2020-2021年度は、以下の7つの研究プロジェクトを実施しています。

「オリент世界を対象とした研究資源のデジタル化とその利活用に関する研究」

代表：永井 正勝

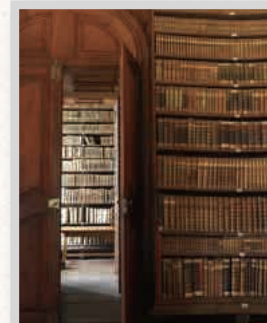
研究資源のデジタル化は、デジタル公開自体が目的であるというよりも、研究資源を扱う研究行為の1つとして位置付けられる。本プロジェクトでは、文献資料、考古資料、建築資料（歴史的建造物）を分析対象とする研究者や情報学の研究者が集い、第一に、IIIF、TEI、VRの利活用を核として研究資源のデジタル化に関する方法論ならびにその可能性について研究を行う。第二に、上記の研究成果を踏まえた実践例として、中エジプト語デジタル辞典の作成を目指す。



「アジア情報資源の組織化に関する研究：目録作成マニュアルの作成」

代表：徳原 靖浩

南・西アジアを中心に、アジアの諸言語で書かれた資料を適切に組織化し、利用に供するために、国内の大学・研究機関の図書館で整理作業を担当する職員や研究者と協働し、言語別ないし地域別の資料の特性に応じた目録作成の方法を検討した上で、言語毎に目録作成マニュアルを作成し、各図書館に配布する。あわせて、図書や雑誌の書誌データと、電子書籍や電子ジャーナル、データベースといったオンライン資料のメタデータを一元的に組織化するための技術的動向に関しても、将来的な地域研究資料の検索のあり方との関連性において検討を行う。



「東京大学所蔵水滸伝諸版本に関する研究」

代表：荒木 達雄

東京大学には水滸伝の各種版本が豊富に所蔵されている。本プロジェクトではすでにさまざまなジャンルの研究業績、知見を有する研究者が、それぞれの角度から東京大学所蔵水滸伝版本を利用した研究テーマを設定し、研究をすすめている。また、その調査過程においてデジタル画像を利用した研究の可能性、問題点などを検討し、今後のデジタル資料と人文研究との関係のありかたについても提言を行っていかねばと考えている。



「『ジャイナ教混淆サンスクリット辞典』構築のための基礎的研究」

代表：蓑輪 顕量 副代表：河崎 豊

ジャイナ教徒が用いる、通常のサンスクリット辞典に記載されないか、もしくは土着辞典にのみ用例が確認されるサンスクリット語（ジャイナ教混淆サンスクリット）の語彙に関するこれまでの研究の書誌学的な調査を行なう。その上で、それら諸研究において収集された語彙データを統合し、「包括的ジャイナ教混淆サンスクリット辞典」の雛型を世界に先駆けて提示する。同時に、新たにジャイナ教のサンスクリット文献から語彙を収集・検討して上記語彙集に追加する。

「ムハンマド・ハキーム・ハーン著『選史』チャガタイ語訳写本の研究」

代表：蓑輪 顕量 副代表：河原 弥生

コーカンド・ハーン国（18世紀初頭～1876）の歴史書として知られるムハンマド・ハキーム・ハーン著『選史』の現存する4点のチャガタイ語訳写本の系統研究をおこなう。最も翻訳完成年の早いタシケント594写本を底本とし、翻訳の逐語性、写本間の関係、筆写系統、翻訳者およびその依頼者、翻訳の目的や読者層などの観点から他の3写本との異同を精査する。写本調査の結果を踏まえ、当該時期の現地社会の言語文化的背景も考慮に入れつつ、本史料の占める価値と位置を検討する。



「海外フィールドワーク収集データのオープン化に関する研究：村落研究を事例に」

代表：澁谷 由紀

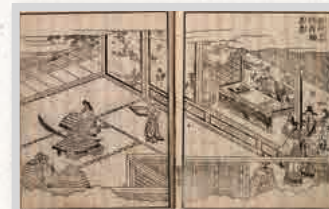
公的研究資金による研究成果のうち、論文とそのエビデンスとしての研究データは、原則公開とすべきという施策が近年進められている。地域研究の分野において、フィールドワークで収集した研究データには、公開になじまないデータが多く含まれる。また海外で収集したデータについては、調査国のカウンターパート機関や調査地に向けてどのように公開・共有すべきかという視点が不可欠である。以上の状況を鑑み、海外フィールドワーク収集データの学術的・倫理的に望ましい公開・保管のあり方について研究を行う。



「壬辰戦争からみる 16・17 世紀東アジア」

代表：中尾 道子

16・17 世紀東アジアの社会・経済・文化の全体に広く重大な影響を及ぼした壬辰戦争について、一国史の枠を超えて幅広く共有できるテーマを設定することで、新しい視点から再検討を行う。まず、日本に現存する壬辰戦争の関連資料を網羅的に調査・研究し、これらの成果をもとにした新たな切り口（朝鮮王子と日本軍の動向など）から壬辰戦争の展開を分析する。その上で、日中韓をはじめ広い地域の関連研究者と協働し、16・17 世紀の東アジアにおける壬辰戦争の新たな位置付けを提示する。



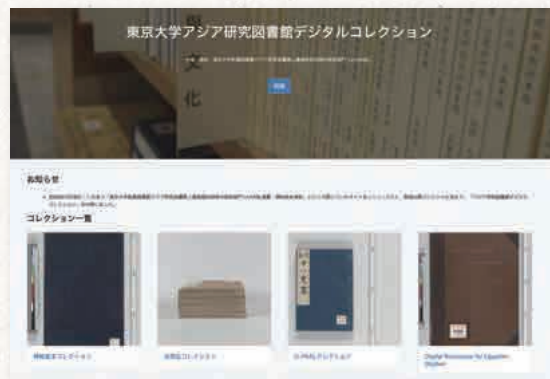
MISSION

2

- ◆ デジタルリソース研究
- ◆ 研究情報資源の管理提供研究
- ◆ 研究図書館に関する調査研究と相互交流

研究図書館の機能開拓研究

研究図書館のあるべき姿を求めて、研究情報資源の管理や提供方法、国内外の図書館との情報交換を行っています。

東京大学アジア研究図書館
デジタルコレクション

東京大学アジア研究図書館ならびに総合図書館等の所蔵するアジア関連学術資源の高精細画像を提供しています。



※このページの背景画像は、東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション所収の拓本の一部を使用しています。

公開ワークショップ
アジア資料目録作成ワークショップ
「ウルドゥー語編」

研究者とライブラリアンが広く協力し、アジア資料を効率的に検索利用するための目録作成のノウハウや課題を共有しています。

公開シンポジウム
「漢籍のデジタル化公開と
中国古典小説研究の展開」

東京大学に所蔵される水滸伝諸本のデジタル化公開の現状の紹介と、関連する研究成果を公開するシンポジウムを開催しました。

公開セミナー
「IIFに準拠した画像公開の
方法とTEIとの連携」

デジタル化の手法やデジタル資料の活用法を検討するセミナーを実施しました。

MISSION

3

人材育成と社会還元

U-PARLはアジア研究や図書館に関する様々な情報を積極的に発信しています。

◀ 図書館総合展
ポスター発表

U-PARLについて広く知っていただくため広報活動にも力を入れています。

▲ むすび、ひらくアジア4

「サブジェクト・ライブラリアンの将来像－日本の大学図書館への導入拡大に向けて－」

アジア研究図書館に2021年4月に配置されたサブジェクト・ライブラリアンの将来像をテーマに、制度の確立と日本の大学図書館への普及に向けて、人材の育成と確保のための新しい仕組みを構築する方法とその課題について議論しました。

MISSION

4

アジア研究図書館の構築支援

- ◆ フロアと制度の検討
- ◆ 蔵書構築

図書館のあり方は日々変化していますが、その根幹はやはり所蔵する資料にあります。U-PARLでは、新規購入、寄贈資料の受入れ、学内の図書館・図書室の資料の統合の三方向から、アジア研究図書館の蔵書構築を推進しています。



資料の購入・受入から配架に至るまで、さまざまな図書館関係業務を担当しています。



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

背景の文字は、アジアのことばで書かれた詩や格言です。
詳しくはこちらのQRコードからコラムをご覧ください。



東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門
UEHIRO PROJECT FOR THE ASIAN RESEARCH LIBRARY

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
ph: 03-5841-4043 fax: 03-5841-4074

<http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp>

Twitter: https://twitter.com/U_PARL



U-PARL 公式ウェブサイト



U-PARL 公式ツイッター



ヒエラティック画像は エルミタージュ美術館(The State Hermitage Museum, St. Petersburg.)蔵